「ふ」で始まる語彙辞典（メジャー）

小説・ラノベの文章表現を
豊かにしよう

はじめに

こちらの語彙辞典は、
小説投稿サイト『小説家になろう』で公開している
【小説・ラノベの書き方講座｜ビジネス思考の創作論】の中の
『小説・ラノベの文章表現を豊かにする 50 音別の語彙辞典』を
ＰＤＦレポート形式に整理したものです。

多くの語を記憶することで、
あなたの文章表現力は
今よりも豊かなものとなります。

『１日５語ずつ』などのように目標を決めて、
今の自分が知らない語を暗記していきましょう。

なお、こちらの語彙辞典は
ノマドクリエイターのショウヘイが
趣味の一環で制作したものです。

商用で販売するつもりは一切ないので、
あなたの友人・知人の作家仲間に
自由に配布してくださって構いません。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

目次

はじめに 2

「ふ」で始まる語彙辞典（メジャー） 4

おわりに 24

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

「ふ」で始まる語彙辞典（メジャー）

ふ - あたり【不当（た）り】
① 興行物・催し物などで、人気が出ないで客の入りが悪いこと。「この芝居は―だ」
② 時流に乗らず、はやらないこと。

ふ - あんない【不案内】
［名・形動］
① 細かいようすや事情がよくわからないこと。また、そのさま。「―な土地」
② その方面の心得があまりないこと。また、そのさま。「株にはまったく―です」

不意（ふい）を食・う
思いがけない目にあう。だしぬけに物事を仕掛けられる。不意を食らう。「―・ってあわてる」

風雲（ふううん）急を告・げる
今にも大きな変動が起きそうな、さしせまった情勢である。「―・げる政界再編の動き」

ふううん - じ【風雲児】
社会の変動などに乗じて活躍する英雄的人物。「映画界の―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふう - が【風雅】
［名・形動］
① 高尚で、みやびな趣のあること。また、そのさま。「―な住まい」
② 詩文・書画・茶道などのたしなみのあること。「―の心得」

ふう - き【富貴】
［名・形動］
金持ちで、かつ地位や身分が高いこと。また、そのさま。ふっき。「―になる」「―な（の）生まれ」⇔貧賤(ひんせん)。

ふう - こう【風光】
自然の美しい眺め。景色。「―に恵まれた地」「―明媚」

ふう - さい【風采】
容姿・服装・態度などの、人の見かけ上のようす。「―の上がらない人」

ふう - さつ【封殺】
［名］(スル)
相手の言行をむりやりにおさえつけること。「反対派の意見を―する」

ふう - しゅ【風趣】
おもむき。風情のある味わい。「―に富んだ情景」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふう - たい【風袋】
① はかりで物の重さを量るとき、それを入れてある容器・袋・箱など。「―こみの目方」
② 実質に対しての外観。うわべ。見かけ。「―ばかりりっぱな人」

ふうたい - だおし【風袋倒し】
① 外見は重そうに見えるが、実際は軽いこと。
② 外見はりっぱだが、内容はつまらないもの。見かけ倒し。

ふうど - しょく【風土色】
風土の違いから、それぞれの土地に生じる特色。「―豊かな郷土料理」

ふう - ぶん【風聞】
［名］（スル）
① 世間のうわさに伝え聞くこと。「とかくの―がある」
② さまざまに取りざたすること。「悪しざまに―される」

ふ - えん【敷衍】
［名］（スル）
① おし広げること。
② 意味・趣旨をおし広げて説明すること。例などをあげて、くわしく説明すること。「教育問題を社会全般に―して論じる」

ふ - おんとう【不穏当】
［名・形動］
さしさわりがあって適当でないこと。おだやかでないこと。また、そのさま。「―な言葉を吐く」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふ - か【浮華】
［名・形動］
うわべは華やかで、実質の乏しいこと。また、そのさま。「―な生活に堕する」

不覚（ふかく）を取・る
油断をして失敗する。しくじって思わぬ恥をかく。「スクープ合戦に―・る」

ふか - そく【不可測】
［名・形動］
予測できないこと。予期できないこと。また、そのさま。「―な（の）事態に備える」

ふか - なさけ【深情け】
異性に対する情愛の度が過ぎること。また、その情愛。「悪女の―」

ふか - ぼり【深掘り】
［名］（スル）
① 深く掘ること。深く掘れること。「―技術」「川底の―が生じる」
② 深く調べたり考えたりすること。また、深く関係をもつこと。「課題の―」「従来からの顧客を―する」

ふか - ま【深間】
［名・形動］
① 水などの深い所。深み。「谷の―に落ち込む」
② 男女が、別れられないほど深い仲になること。また、そのさま。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

腑(ふ)が抜・ける
意気地がなくなる。気力が失せる。腑抜けになる。「彼女の前では―・けたようになる」

ふが - ふが
［副］（スル）
鼻や口から息が漏れて、言っていることがわからないさま。「―して聞きとれない」

ふき - あつ・める【吹（き）集める】
［動マ下一］［文］ふきあつ・む［マ下二］
風が吹いて、物を一つところに寄せ集める。「落ち葉が―・められる」

ふき - さらし【吹き曝し】
さえぎるものがなく、風の当たるままになっていること。また、その場所。ふきっさらし。「―のバス停」

ふき - さら・す【吹き曝す】
［動サ五（四）］
さえぎるものがなく、風が吹き当たるにまかせる。「木枯らしに―・されながら電車を待つ」

ふき - た・てる【吹（き）立てる】
［動タ下一］［文］ふきた・つ［タ下二］
笛などを、高らかに吹き鳴らす。「いっせいにらっぱを―・てる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふき‐た・てる【拭き立てる】
［動タ下一］［文］ふきた・つ［タ下二］
きれいになるまで何度も何度も拭く。「ぴかぴかに―・てる」

ふき‐だまり【吹き溜まり】
① 雪や落ち葉などが風に吹き寄せられてたまっている場所。
② 行き場のない人たちが、自然と寄り集まる所。「社会の―」

ふき‐つの・る【吹（き）募る】
［動ラ五（四）］
風の勢いがさらに激しくなる。「北風が―・る」

ふ‐きゅう【不朽】
朽ちないこと。いつまでも価値を失わずに残ること。「時代を超えた―の名作」

ふ‐きゅう【不急】
［名・形動］
急を要しないこと。今すぐでなくてもよいこと。また、そのさま。「―な（の）用件」「不要―」

ふ‐きょう【富強】
［名・形動］
経済的に豊かで勢力が強いこと。また、そのさま。「ますます―になる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふ - ぎょうじょ【不行状】
［名・形動］
品行のよくないこと。身持ちの悪いこと。また、そのさま。不行跡。不品行。「―な（の）叔父」

ふく - いく【馥郁】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
よい香りがただよっているさま。「―たる梅の香」

ふく - うん【福運】
幸福と好運。幸福をもたらすめぐり合わせ。「―に恵まれる」

ふくがん - てき【複眼的】
［形動］
いろいろな立場・視点から物事を見たり考えたりするさま。「―な考察」「―に検討する」

ふく - しゃ【複写】
［名］（スル）
① 写してあるものをもとにして、もう一度写すこと。「古い記念写真を―する」
② 用紙の間にカーボン紙をはさんで書くなどして、同一書類を 2 通以上作ること。また、そのもの。
③ 複写機を用いて文書・図表などを原本どおりに写し取ること。また、写し取ったもの。コピー。「書類を―して配る」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふくじ‐てき【副次的】
［形動］
ある事柄・状態が、他のものに付随した存在であったり、従属した関係にあったりするさま。二次的。「―な現象」

ふく‐たく【福沢】
幸福と恩沢。恵まれた境遇にあること。「富貴―の人」

ふく‐ちょう【復調】
［名］（スル）
からだなどの調子が正常な状態に戻ること。「休養を得て―する」

ふく‐てつ【覆轍】
前の車が転倒した跡。転じて、先人の失敗。「―を踏む」

ふくぶく‐し・い【福福しい】
［形］［文］ふくぶく・し［シク］
顔つきがふっくらとしていて、幸福そうなさま。「―・い顔立ち」

ふくみ‐わらい【含み笑い】
［名］（スル）
口をとじ、声を出さないで笑うこと。また、その笑い。「意味ありげに―する」

含(ふく)む所があ・る
心の中に恨み・不満などの気持ちがある。恨みに思っている。「何か―・る物言い」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

吹(ふ)けば飛ぶよう
わずかな風でも吹き飛ばされるほど軽いさま。また、貧弱なさま。「―な小屋」

ふ‐けんしき【不見識】
［名・形動］
見識に欠けること。判断力に乏しく、しっかりした考えのないこと。また、そのさま。「―きわまる話」「―な発言をする」

ふ‐しょう【不肖】
［名・形動］《「肖」は似る意》
① 取るに足りないこと。未熟で劣ること。また、そのさま。不才。「―ながら誠心誠意努力いたします」「―の身」
② 父に、あるいは師に似ないで愚かなこと。また、そのさま。「―な（の）弟子」「―の子」

ふ‐しん【腐心】
［名］（スル）
ある事を成し遂げようと心をくだくこと。苦心。「会社の再建に―する」

ふ‐ずいい【不随意】
［名・形動］
意のままにならないこと。また、そのさま。「顔の筋肉が―に動く」

ふ‐せいしゅつ【不世出】
めったに世に現れないほどすぐれていること。「―の天才」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふ - せいぶん【不成文】
文章に書き表していないこと。「―のまま了解事項にしておく」

ふ - せつ【敷設】
［名］（スル）
広い範囲に設置すること。「鉄道を―する」

ふ - たいてん【不退転】
信念を持ち、何事にも屈しないこと。「―の決意」

二目（ふため）と見られない
二度と見る気にならない。「―惨状」

蓋（ふた）を開（あ）・ける
物事を始める。また、物事の実情・結果などを見る。「効果のほどは―・けてみなければわからない」

ふっこ - ちょう【復古調】
思考・体制・流行などが昔にかえる傾向にあること。「―のファッション」

降（ふ）って湧（わ）・く
突然起こる。思いがけなく現れる。「―・いた縁談」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふ - つう【不通】
① 通じないこと。交通・通信などがとだえること。「大雪で国道が―になる」
② 便りや行き来のないこと。「音信―」
③ 意味などが、通じないこと。わからないこと。「文意―」

ふつ - ぜん【怫然】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
怒りが顔に出るさま。むっとするさま。「―とした表情」

ふつ - ふつ
［副］
勢いよく細い物を切る音や、そのさまを表す語。「紐を―と切る」

ふ - てきとう【不適当】
［名・形動］
適当でないこと。また、そのさま。「―な物件」「―な発言」

筆(ふで)が滑・る
調子にのって書かなくともよいことまで書いてしまう。「内々の手紙でつい―・る」

筆(ふで)に任・せる
文面の体裁などを考えすぎず、筆の走る勢いにまかせる。「―・せて自由に書く」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふで - ぶしょう【筆不精】
［名・形動］
面倒がって手紙や文章などをなかなか書こうとしないこと。また、そのさまや、そのような人。「―でつい義理を欠く」⇔筆忠実(まめ)。

ふで - まめ【筆忠実】
［名・形動］
おっくうがらずに、手紙や文章をまめに書くこと。また、そのさまや、そのような人。「―に連絡する」⇔筆不精。

筆(ふで)を擱(お)・く
文章を書きおえる。擱筆(かくひつ)する。「長期連載した小説の―・く」

筆(ふで)を起(お)こ・す
書き始める。筆を下ろす。「どう―・すか、なかなか決まらない」

筆(ふで)を折・る
文章を書くことをやめる。文筆活動をやめる。筆を断つ。「大作を最後に―・る」

筆(ふで)を執・る
書画または文章を書く。執筆する。「さっそく返信の―・る」

筆(ふで)を投・げる
書くことを途中でやめる。「締め切りを破ったあげくに―・げてしまう」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

筆(ふで)を走ら・せる
すらすら書く。勢いよく筆を運ぶ。走り書きする。「友への手紙に―・せる」

ふとう - ふくつ【不撓不屈】
どんな困難にあっても決して心がくじけないこと。「―の精神」

ふ - とくさく【不得策】
［名・形動］
得策でないこと。また、そのさま。「事を荒立てるのは―だ」

ふとく - ようりょう【不得要領】
［名・形動］
要領を得ないこと。要点がはっきりしないこと。また、そのさま。「―な返事」

懐(ふところ)を痛・める
自分の金を使う。身銭を切る。「―・めてまで見ず知らずの他人に施しをする」

懐(ふところ)を肥や・す
不当の利益を得る。私腹を肥やす。懐を暖める。「裏取引の口利きをして―・す」

ふとどき - しごく【不届き至極】
［形動］［文］［ナリ］
この上なく不届きなさま。不届き千万。「―なやつ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふ - にょい【不如意】
［名・形動］《「意の如くならず」の意》
① 経済的に苦しいこと。また、そのさま。「手元―な生活」
② 思い通りにならないこと。また、そのさま。「―な結果に終わる」

ふ - ねっしん【不熱心】
［名・形動］
熱心でないこと。熱意に欠けること。また、そのさま。「―な生徒」

船(ふね)を漕(こ)・ぐ
《船をこぐようすに似ているところから》
座ったまま身体を前後に揺らして居眠りをする。「こっくりこっくり―・ぐ」

ふ - ひんこう【不品行】
［名・形動］
品行が悪いこと。身持ちの悪いこと。また、そのさま。「―な男」

ふぶん - りつ【不文律】
①「不文法」に同じ。⇔成文律。
② 互いに心の中で了解し合っているきまり。「干渉しないのがわが家の―だ」

不平(ふへい)を鳴ら・す
不平を言いたてる。「小遣いが少ないと―・す」

不平(ふへい)を並・べる
不平を次々と言う。「あれこれと―・べる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふ - ほう【訃報】
死去したという知らせ。悲報。訃音。訃。「恩師の―に接する」

ふみ - ちが・える【踏（み）違える】
［動ア下一］［文］ふみちが・ふ［ハ下二］
① 踏み所を誤る。「階段を―・える」
② 踏み所が悪く、足首の筋を痛める。「右足を―・える」
③ 道を誤る。「人生を―・える」

ふみ - なら・す【踏み均す】
［動サ五（四）］
① 踏みつけて平らにする。「荒れたグラウンドを―・す」
② 道が平らになるほど行き来する。

ふみ - なら・す【踏（み）鳴らす】
［動サ五（四）］
激しく踏んで音をたてる。「舞台を―・して踊る」→床を踏み鳴らす

ふみ - はだか・る【踏み開かる】
［動ラ五（四）］
足を広げてしっかりと立つ。「通すまいと―・る」

ふ - めいろう【不明朗】
［名・形動］
明るくほがらかでないこと。隠しごとやごまかしがあり、はっきりとしないこと。
また、そのさま。「―な会計」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふ - めんぼく【不面目】
［名・形動］
面目を失うこと。名誉が傷つけられること。また、そのさま。不名誉。ふめんもく。「試合は―な結果に終わった」

不問(ふもん)に付・す
過失などをとがめないでおく。「今回のミスに限り―・す」

ふ - ゆきとどき【不行（き）届き】
［名・形動］
気のくばり方や注意が足りないこと。また、そのさま。「―な（の）点はお許しください」「監督―」

ふり - し・く【降（り）敷く】
［動カ五（四）］
降って地面をむらなくおおう。「落ち葉が道に―・く」

ふり - つの・る【降（り）募る】
［動ラ五（四）］
前にもましていっそう激しく降る。「雨が―・る」

ふ - りゅう【浮流】
［名］（スル）
水に浮かんで流れること。「船の残骸が―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふりょ‐の‐ほか【不慮の外】
《不慮を強めていう語》
まったく思いがけないこと。

篩(ふるい)に掛(か)・ける
ふるいを使ってより分ける。転じて、条件・基準に合わないものを除外する。

ふるっ‐て【奮って】
［副］
自分から進んで。積極的に。「―ご参加下さい」

ふる‐び【古美】
めっきを施すなどして、金属の表面を古めかしい感じに仕上げること。「―加工のアクセサリー」

ふるぶる‐し・い【古古しい】
［形］［文］ふるぶる・し［シク］
いかにも古い。

ふれ‐ある・く【触（れ）歩く】
［動カ五（四）］
あちこちへ告げ知らせてまわる。「うわさを方々へ―・く」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふわ - ずいこう【付和随行】
［名］（スル）
定まった主義・主張をもたず、ただ他人の言動に同調して行動すること。「何も考えずデモ行進に―する」

ふん - きゅう【紛糾】
［名］（スル）
意見や主張などが対立してもつれること。ごたごた。紛乱。「予算委員会が―する」

ふん - げき【憤激】
［名］（スル）
はげしくいきどおること。ひどく怒ること。「先方のやり方に―する」

ふんこつ - さいしん【粉骨砕身】
［名］（スル）
力の限り懸命に働くこと。「会社のため―する」

ふん - ごう【吻合】
［名］（スル）《上下のくちびるがぴったり合うの意》
① 物事がしっくり合うこと。一致すること。「双方の話が―する」
② 血管・神経などが相互に連絡をもつこと。また、血管や腸管などの端どうしを手術によってつなぐこと。「動脈―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふん - しょく【粉飾】
［名］（スル）
① 飾りつくろうこと。うわべをとりつくろって立派に見せかけること。「事実を―して話す」
② 紅や白粉（おしろい）で化粧すること。美しく装い飾ること。

ふん - ぜん【紛然】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
物事が入り乱れてごたごたしているさま。「―たる様相」

ふん - ぜん【憤然】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
激しく怒るさま。「―として席を立つ」

ふん - ぜん【奮然】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
ふるい立つさま。勇気・気力などをふるい起こすさま。「―として攻撃に転じる」

ふん - ど【憤怒】
［名］（スル）
ひどく怒ること。ふんぬ。「非道な行為に―する」

ふん - ぱん【噴飯】
［名］（スル）
《おかしくて、食べかけの飯をこらえきれずに噴き出す意から》
がまんできずに笑ってしまうこと。「彼の弁解は―ものだ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ふんぱん - もの【噴飯物】
食べかけの飯をこらえきれずに噴き出してしまうほどに、おかしくてたまらない出来事。もの笑いのたねになるような、みっともない事柄。「政治屋が政界浄化を語るなど―だ」

ふん - びょう【分秒】
時間の分と秒。きわめてわずかの時間。寸秒。「―を争う」「―を惜しむ」

ふん - まん【憤懣】
怒りが発散できずいらいらすること。腹が立ってどうにもがまんできない気持ち。「―やるかたない」「―をぶつける」

ふん - れい【奮励】
［名］（スル）
気力をふるい起こして、努め励むこと。「―努力する」「―すべき大目標」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

おわりに

【あいさつ】

語彙辞典を読んでくださり、ありがとうございました。

当レポートを制作したショウヘイと申します。

私は旅する作家という生き方を理想としています。日本や世界の各地を渡り歩くことで、作家としての引き出し（人生経験）を増やし、より良質な物語を世に送り出し続ける……そんな自由な作家生活です。

また、個人で稼ぐ能力を身に付けることで、会社に時間と場所を縛られない人生の実現も目指します。個人で安定した収入を得られれば、出版社の編集者の言いなりにならずに、自分が心から好きな物語を創作できるようにもなるからです。

私が運営しているブログ【ノマドクリエイターの執務室】では、旅する作家になるために役立つ情報を発信しています。もちろん、小説家・ラノベ作家として活躍するために役立つ創作論も公開しています。

時間と場所に縛られない、新しい作家の生き方に興味がありましたら、ぜひブログを覗いてみてください。

↓　　↓　　↓

■ ブログ：ノマドクリエイターの執務室（https://ノマドクリエイター.net）

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.